

世界で満開！ とびだせ6の4～ブラジル編～



氏名：柴田 浩行

学校名：横浜市立神大寺小学校

担当教科：

実践教科：総合的な学習の時間・社会・道徳・家庭科

時間数：15 時間

対象学年：6 年生

人数：31 名

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

- ・日系ブラジル人がどのような思いをもって生活しているのかを知ることで、自分とは文化や考え方が異なる相手と互いを認め合おうとすることができる。
- ・日本人の移民の歴史を調べることで、日本人が諸外国に対してどのような貢献を果たしてきたのかを考えることができる。

【2】 単元の評価 規準例

(ア) 関心・意欲・態度

ブラジルの国土の特徴や産業の様子、人々の暮らしの様子、文化や生活習慣、日本とのつながりを、見通しをもって調べようとしている。

(イ) 思考・判断・表現

ブラジルの人々の暮らしの様子、文化や生活習慣などについて、日本との相違点・共通点、日本とのつながりを考え、適切に表現している。

(ウ) 技能

ブラジルの人々の暮らしの様子、文化や生活習慣などについて、図書資料や統計資料、インターネットを活用したり、生活文化を体験したりして調べ、まとめている。

(エ) 知識・理解

ブラジルの人々の生活・文化や、国土の特徴、日本とのつながりを理解している。また、異なる文化や習慣をもつ人々と協調し合っていくことの大切さを理解している。

【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観


本校6年生の児童は、教師や友達の話をしっかり聞くことができ、やるべき課題に対して前向きに取り組むことができる。その一方で、自ら主体的に課題を発見・追究しようとする場面は少ない。また、友達との関わりについては相手の気持ちより自分の気持ちを優先させようとして、思い通りにならないとトラブルに発展することがある。そこで、ブラジルの日系移民の歴史を探り、日系ブラジル人の思いをもとに自分たちの生活や考え方を見直すことで、世界に目を向けて自分たちとのつながりをさらに探究しようとしていたり、自分とは考え方が違う相手とも協調し合っていこうとしていたりする態度を育てていきたいと考えた。

【4】展開計画（全 15 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○自分たちの身のまわりのものや景色などとの共通点・相違点に気付き、学習課題について話し合うことができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 教師がブラジルで見てきたものや景色などを紹介する中で、気付いたこと(気になったことや調べてみたいこと)を共有する。	・世界地図 ・地球儀 ・写真 ・映像
2	○調べたい課題を仲間分けすることで、追究していくテーマをまとめることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 前時の気付きをもとに追究していく課題をあげ、種類ごとに大きく仲間分けをして、それぞれのテーマにまとめる。また、テーマごとに分担し、グループで調べていく見通しをもつ。	
3・4	○それぞれのテーマについて、グループごとに調べ学習をすることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 修学旅行の事前学習でもテーマとなった「自然」「文化」「歴史」の3つのグループに分かれて、調べ学習を行う。また、調べたことを画用紙にまとめて、発表の準備をする。	・パソコン ・画用紙
5	○調べたことをグループごとに発表し、わかったことを全体で共有することができる。 (総合的な学習の時間)	◆ グループごとに調べたことを発表し合う。調べている中で、追究しきれなかったり、新たな疑問が出てきたりしていたら、それも互いに紹介し合う。	・画用紙
6 本時	○人にはいろいろな見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとすることができる。(道徳)	◆ 日系ブラジル人の写真から、「人種」や「外国人」に対して無意識の偏見をもちながら生活していることを自覚する。また、教師がブラジルで出会った日系ブラジル人の方へのインタビューをもとに、考え方は人によって異なることを理解する。	・写真 ・ワークシート
7	○日系移民の歴史を追究するという課題意識をもち、調べ学習の見通しをもつことができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 前時までの学習を通してわかったことや気付いたことをまとめるとともに、もっと知りたいことを共有する。	・ワークシート
8・9	○世界に移り住んだ日本人がいて、現地の発展にどのように貢献したのかをとらえることができる。(社会)	◆ 日系移民の歴史について、資料をもとに調べる。また、調べた事実を全体で確認する中で、それに対する自分の考えをまとめて発表し合う。	・社会科教科書 ・社会科資料集
10	○青年海外協力隊として活動していた人の話を聞くことで、国際貢献の意義について考えることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 青年海外協力隊としてスーダンで活動していた方の話を聞く。どのような思いで、どのような活動をしていたのかを直接聞く中で、自分なりの考えをもつようにする。	

11・12	○異文化を体験したいという意欲をもち、ブラジルの郷土料理作りの計画を立てることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 異文化を体験するために、教師が実際に現地で食べてきたブラジルの郷土料理を自分たちで作ってみる。そのために必要な材料や作り方を調べるなど、計画を立てる。	・パソコン
13・14	○ブラジルの郷土料理を、計画にそって作ることができる。 (家庭科)	◆ 以前お話をしてくれた青年海外協力隊の方を招待し、自分たちで立てた計画にそって、ブラジルの郷土料理を作って食べてみる。	・必要な食材
15	○学習全体を通して学んだことを振り返ることで、これからの自分の生き方について考えることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 異文化に出会い、理解することの大切さと楽しさをあらためて自覚し、これからも自分とは異なる考え方や文化に積極的に関わっていこうとする姿勢をもてるようにする	

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 2分	○「もしも『あなたは何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する、自分なりの答えを発表する。	◆ この質問に対しては何の疑問も感じずに「日本人」と答えることが予想されるが、それは今回の学級には外国籍につながる児童はいないためである。実態によっては、導入の仕方を変える必要がある。 ◆ 授業後の考えの変容を自覚させるために、出てきた発言と学級の集合写真を板書に残しておく。	・学級の集合写真
展開 1 18分	○日系ブラジル人の一族の集合写真を見て、気付いたことについて話し合う。 	◆ 教師のホームステイ先の一家で撮影した、一族の集合写真の一部を見せる。初めは何も情報を与えずに、児童が率直に気付いたことを話し合えるようにする。 ◆ ワークシートと付箋を使い、一人ひとりの気づきを全体へと広げていく。	・パワーポイント ・写真 ・ワークシート ・付箋 ・模造紙

写真から気付いたことを付箋に書く

○日系ブラジル人について知り、考えたことを発表し合う。



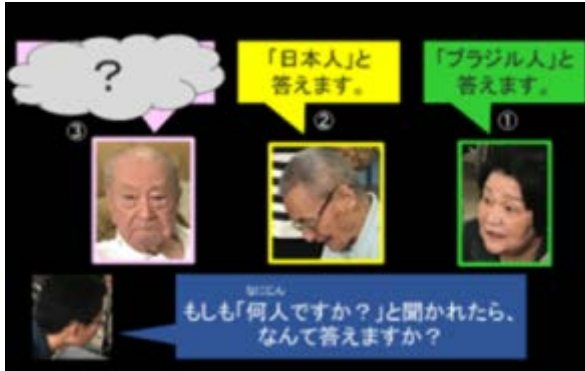
気付いたことを共有する

◆ 写真中央のご主人以外は、全員ブラジル人であることとともに、「日系〇世」という言い方と意味を教える。

◆ 児童が驚きを見せたら、なぜ驚くのかを問い返すことで、「人種」や「外国人」に対して無意識の偏見があったことに気付かせる。

展開
2
20分

○ブラジルの厚生ホームで出会った日系ブラジル人の方への「もしも『あなたは何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する答えを聞く。



インタビューを紹介するパワーポイント

◆ ブラジルの厚生ホームで、教師が実際に話を聞いている場面の写真を見せる。また、その中にいた3名(いずれも日系2世の方)が答えた内容を紹介する。

・パワーポイント
・写真
・ワークシート

○日系ブラジル人の方の思いについて自分の考えをもち、発表し合う。



互いの考えを共有する

◆ 3名はそれぞれ異なる答えをしている。1人目は「ブラジル人」、2人目は「日本人」、そして3人目は「それに答えるのはとても難しい」である。そのひとつずつについて、なぜそのように答えたのかを自分なりに考えさせる。特に3人目の答えについては多様な意見が出るのが予想されるので、時間を長めに確保する。

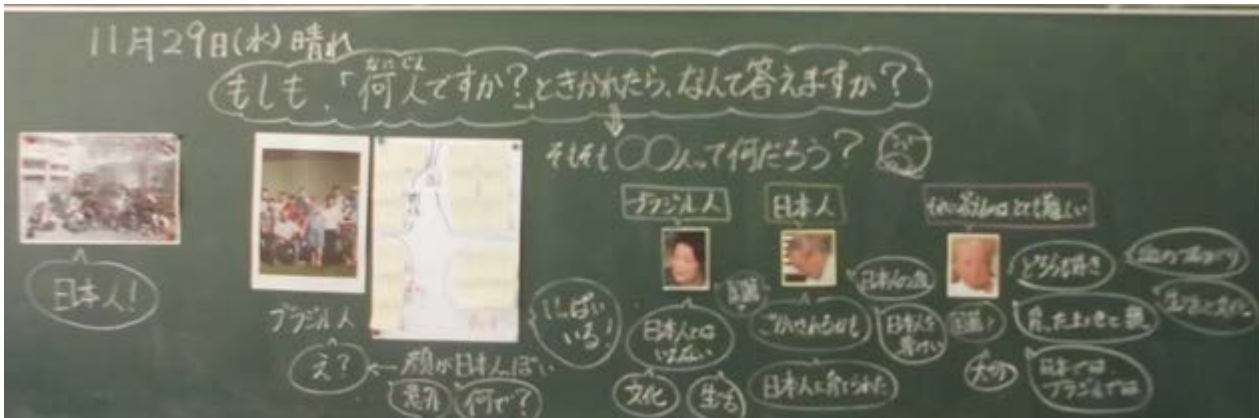
◆ 一人ひとりの考えを全体化できるように、まずは個人で考え、その後グループ、そして全体で発表し合うようにする。

まとめ 5分
○話し合いを通して学んだことを振り返る。

◆ 振り返りに書いたことを発表し
合い、考えの変容を自覚す
る。

・ワークシート

最終板書



【6】本時の振り返り

展開2においてグループやクラスで共有する中で、3人の方のどの答え方が正解というわけではなく、人によって考え方や大切にしているものがちがうだけなんだということに気付くことができていた。授業の最後には、自分とは異なる考えも尊重しようとする振り返りが多く見られた。また、人種を気にする必要などないのではという、多文化共生を目指すような振り返りをする児童もいた。一方で、相互理解の態度は1時間の授業で十分に養うことができるものではない。今後も、本単元に留まらず、他教科や学校行事、あるいは日常生活の中で継続的に子どもたちに伝えていく必要がある。

【7】単元を通じた児童の反応/変化

・単元の最初にブラジルのものや景色を紹介したときには、児童は日本との違いに驚いていた。

川が海みたいでびっくりした。色の境い目がハッキリしていた。
ソリスタンドが川にあったことがびっくりした。

道路が逆?
海だと思、たら川? 怖い。

「木が出ます」のまんまがあれおどろいた。
葉はかじり!!! 花もかじり!!! } おどろいた。
魚もかじり!!! 川もかじり!!!
アホか? 木もかじり!!!

・ブラジルについて調べ学習を進める中で、日本の食べ物や伝統文化がブラジルにたくさんあることに気づき、その理由に興味をもっていた。

。なんでブラジルに、日本料理があるの？
。なんでブラジルの新聞が日本語？

ブラジルに日本語でかいてある新聞があることにびっくりしました。これをみてブラジルの人はどうするのかなと思いました。

納豆、新聞、本、おし、鳥居、巻ずし、カレー、日本人形
ブラジル！？

・第6時の実践授業を通して、人にはそれぞれの見方や考え方があることを理解していた。また、多文化共生を目指すような思いをもつ児童もいた。

その人の考え方がいじわるということについて知りました。

自分(個人)の考え方で、他人^{ひと}だけじゃなくて、いろいろ変わってくるということが分かった。
また感じ方次第で変わる。

「他人に対する」というのは、とて難しい質問だなと思った。
人は、考え方ばかりで考えた。
それに、自分はマインツで考えた。「どこか他人に対する」と聞かされた時に、自分も同じかなと思った。

人種は気にしないでだれもが堂々と
人間です。と言えよな社会がいいな
と思う。

・日系社会についてもっと知りたいという課題意識をもつようになった



【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

6年生の始めから週に2回行っている自主学習(内容を自分で決めて、問題を解いたり調べ学習をしたりする家庭学習)において、世界の国々の地理的特徴や日本とのつながりを題材とする姿が見られるようになった。

【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

多くの児童にとっては、外国というだけで全くちがう世界であるというイメージがあった。例えば、食べ物や乗り物、建物など、日常生活の中でよく目にするものが日本とは異なるのが当たり前であるという感覚だった。国際理解教室等の学習においても、多くの場合が日本の文化との違いを伝える内容の授業である。だから、ブラジルの紹介をしたときには、意外にも日本との共通点が出てきたときの方が反応が大きかった。

(授業後)

今回の授業を通して、住む場所や言語の違いはあっても、それを人間としての違いとしてとらえるのではなく、考え方は人それぞれであることは自分たちと変わらないことを理解することができた。また、ブラジルの中に日本の文化があることを知り、その理由を調べたことで、自分たちとも関わりがあることを知ることができた。それにより、授業前のように「外国＝違う世界」という捉え方から、世界はつながっていて、そこで生活する人々の思いは自分たちとも共通することがあることに気付くことができた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

異文化理解の重要性とその価値を伝えるための授業をしたいという思いで、事前研修から授業づくりに取り組んできたが、それを教室の中で実現させる方法を考えることに苦労した。自分が現地で体験した多くの異文化は、どれも教材になり得るもので、どれを入口として児童に思考させていくべきか。それは、現地での研修を終えてからのの方がより悩んだ部分だった。

2. 改善点

今回、私が担任するクラスには外国籍につながる児童がいなかった。しかし、もしもそのような児童がいた場合には、授業のメインとなる「何人(なにじん)と聞かれたら」という質問を児童にも投げかけるかどうかについては配慮が必要な場合があると考えられる。児童のどのような考えを引き出すのかは、その実態や家庭的な背景に応じて変える必要がある。

3. 成果が出た点

まずは私自身が異文化を肌で感じ、生きた体験を語ることで、それが児童の世界に対する興味関心につながったことだ。また、現地で私が悩んだりわからなくなったことも児童と共有したことで、異文化理解や途上国の問題解決は簡単にできることではないことも理解させることができ、継続的な課題意識をもたせることもできた。

4. 備考(授業者による自由記述)

初めは「開発教育」という言葉自体にあまり馴染みがなかったが、研修を含めた今回の授業づくりを通して、その大切さと難しさを感じた。本実践は開発教育という視点から有効的な部分もあったと思うが、あくまでも実態に合わせた一例なので、この実践をスタートとして今後も教材研究・教材開発を重ねていきたい。また、私自身が異文化ともっともっと出会うことで、異文化理解力を高めていきたい。

参考資料



学級掲示「ブラジルで買った世界地図」

黒板に大きな四角を書き、「ここに世界地図を貼ります。日本はどこにあるでしょう。」と問いかけると、全員の子どもが四角の真ん中のやや上あたりを示した。その後にこの世界地図を見せると、日本が真ん中になくことに驚いていた。この活動を通して、今まで見てきた世界地図はあくまでも日本を中心とした日本人のためのものだったことに気付いた。



単元名「世界で満開! とびだせ6の4 ブラジル編」

主に総合的な学習の時間で進める学習の単元名を、子どもたちと一緒に決めた。「満開 そして結実」という学年目標に向かって、子どもたちは日々学習や行事に取り組んできた。その中で、この学習を通して「ブラジルのことだけを知るのではなく、他の国のことも知りたい。」という意見が多く出た。そして出来上がったのがこのタイトルだった。



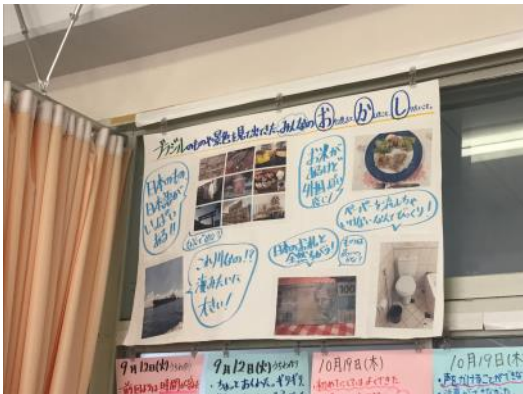
厚生ホームでの交流

サントスにある厚生ホームに訪問して日系の方々からたくさんお話を聞かせていただいた。日本からブラジルに移住してきた経緯や、ブラジルでの暮らしの様子などを聞かせていただく中で、その思いに触れることができた。本時展開にあるように『もしも何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する答えは多様で、人間のアイデンティティについて深く考えるきっかけとなる体験だった。



学級掲示「ブラジルで調べてほしいもの」

現地研修に行く前(夏休み前)に、子どもたちにブラジルに行くことを伝えた。子どもたちは見たり調べたりしてきてほしいものを思い思いに述べていた。掲示の中にある「自然・文化・歴史」の三つのキーワードは、7月の日光体験学習の事前の調べ学習で大切にしてきたもので、今回はそれをブラジルに置き換えることで、ブラジルのことを深く学ぼうとしていた。



学級掲示「先生が見てきたもの」

現地研修を終え、私が見てきたものを写真や動画で紹介した。子どもたちは通貨や伝統料理などを見て「外国っぽい!」と反応したり、アマゾン川を見て「海みたいに大きい!」とつぶやいたりするなど、驚く様子がたくさん見られた。その一方で、日本食や鳥居など、日本らしいものがたくさんあることを知ると「なぜだろう。」と疑問をもつ姿もあった。ここから、さらに調べていきたいことをみんなで出し合っていた



ホームステイ先の及川さん一家の集合写真

現地研修の中で、1泊だけホームステイをさせていただいた。ホームステイ先は及川さんという日系一世の方のお宅で、お家の中に集合写真が飾られていた。私はこの写真を見たときに、ほとんどが日本人であると勘違いしてしまい、自分の中にある無意識の偏見に気付かされた。同じような気付きを子どもたちにもしてほしいと考え、許可をいただいて撮影させていただいた。

参考資料:教科書 社会科(6年生)

資料集 社会科(6年生)

ブラジル調べ学習 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%AB>

ポン・デ・ケイジョ作り <https://cookpad.com/recipe/4639433>

本時で使用した主な資料(教材)

パワーポイントスライド



日系 1世

日本で生まれて
日本で育った



日系 2世

ブラジルで生まれて
ブラジルで育った
親は日本人



日系 2世

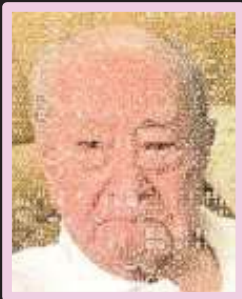
ブラジルで生まれて
ブラジルで育った
親は日本人



なにじん
もしも「何人ですか？」ときかれたら、
なんて答えますか？



③



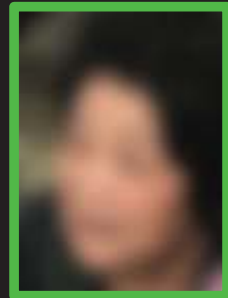
「日本人」と
答えます。

②



「ブラジル人」と
答えます。

①



なにじん
もしも「何人ですか？」と聞かれたら、
なんて答えますか？